

公私比率（県立・私立高校の入学定員割合）について

1 概要

(1) 公私比率の決定方法

公立高等学校連絡会議において公私合意のもとで決定

- ・平成14年度以降は3年ごとに決定
- ・令和3年度は、令和5～7年度（3年間）の公私比率を決定

(2) 公立高等学校連絡会議

文部省通知（S50.9.1）に基づき、「公立高等学校が協力して本県高等学校教育の振興を図るため、公立高等学校の諸問題について連絡調整を行う」ため、昭和55年度に設置

- ・構成：経営管理部次長（座長）、私学関係者5名、県教育委員会4名、学術振興課長
- ・開催頻度：平年は年1回、協議年は年4回程度

(3) 現在の公私比率の合意内容（令和3年度決定）

項目	内容
調整期間	令和5～7年度
比率の母数	県内中学校卒業予定者 ※定時制昼間単位制、夜間定時制・通信制、特別支援、国立高専、専修・各種、就職者(1/2)は対象外
公私比率	私立 22.6%程度 県立 72.2%程度（全日制70.8%、定時制昼間単位制1.4%）
算出方法	(中学校卒業予定者数:100-対象外の実績比率)を現行比率で按分

(4) 公私比率の推移

調整期間	対象外比率	私立高校	県立高校
H14～16	4.5%	22.5%程度	73.0%程度（全日制71.8%程度）
H17～19	4.8%	22.4%程度	72.8%程度（全日制71.6%程度）
H20～22	5.7%	22.1%程度	72.2%程度（全日制70.8%程度）
H23～25	5.2%	22.2%程度	72.6%程度（全日制71.1%程度）
H26～28	5.0%	22.3%程度	72.7%程度（全日制71.2%程度）
H29～31	5.4%	22.2%程度	72.4%程度（全日制71.0%程度）
R 2～4	4.7%	22.4%程度	72.9%程度（全日制71.6%程度）
R 5～7	5.2%	22.6%程度	72.2%程度（全日制70.8%程度）

(5) 近年の定員の充足率

年度	私立高校			県立高校		
	定員 a	実員 b	充足率b/a	定員 a	実員 b	充足率b/a
H31 (R1)	2,125	1,989	93.6%	6,781	6,707	98.9%
R 2	2,090	1,859	88.9%	6,662	6,570	98.6%
R 3	2,020	1,882	93.2%	6,470	6,326	97.8%
R 4	2,000	1,867	93.4%	6,378	6,186	97.0%

2 公私比率に関する各都道府県の設定状況

- 約4割の都道府県で、公私比率を設定している。
- 設定している都道府県では、概ね私立3：公立7となっている。

<公私比率の設定状況>

区分	件数
設定あり	20
設定なし	27

※学術振興課調べ（令和4年8月実施）

<設定県の比率の状況>

区分	件数
私立30%未満	6
私立30%	4
私立30%超	6
非公表その他	4

【平均】 私立30：公立70

<設定していない道府県の状況>

公私比率の定めがない道府県の取扱い	件数
公私とも各設置者において判断	8
私立は各設置者において判断 (公立の対応) ・ 中学3年生の在籍者数の増減や近年の志願倍率の状況等を踏まえて設定 (3) ・ 県教委県立高校再編計画や進学実績に基づいて定員の見直しを実施 (3) ・ 過去の公私比率を踏まえて設定 (2) ・ 私立高校の前年度募集定員分を参考に設定 ・ 県立の競争倍率 (1.03) の維持となる定員を設定	10
公私合わせての判断 (公私の対応) ・ 概ね公立7：私立3を目安 (4) ・ 県内の実態、学校からの意見・要望等を踏まえつつ、定員設定や見直しを検討 (2) ・ 公私それぞれ実現を目指す定員目標を定め、協議会の場で入学者数の目標を設定 ・ 教育委員会が定めた指針に基づき調整 ・ 公立と私立の募集人数を合わせて、中学校の進学予定者数を上回る募集人員が確保されていることを確認	9

※学術振興課調べ（令和4年8月実施）

<公立高校の募集定員の率の適用範囲>

項目	件数
定められた率を超えないように設定	11
定められた率は目安で幅を持たせて設定	7
その他	2

※県立学校課調べ（令和4年10月実施）

3 議論にあたっての論点

(1) 公私比率の設定の必要性

- ・ 県立高校は、県内の広域にわたり学校を設置し、普通科や専門学科、総合学科を設置するなど多様な選択を可能にしている。
- ・ 私立高校は、生徒急増期に中学生の進路保障に大きな役割を果たした経緯があり、経営の安定も図りながら、建学の精神に基づき、特色ある教育活動を展開している。
- ・ 公私比率は、中学校卒業者の進路動向を踏まえ、①県内の中学校卒業者の学習機会の確保、②各中学校の生徒の収容に係る将来計画、③私立高校の定員の確保の観点から、公私協調の下で設定してきた。
- ・ 近年、県内の中学生は「行ける学校」ではなく、何を学びたいかで「行きたい学校」を判断している。そのため、部活動等に魅力を感じて県外私立高校への進学や、県外に本部を置く広域通信制高校への進学が増加傾向にある。
- ・ こうしたことも背景に、県立高校、私立高校ともに、定員割れの状況が続いている。
- ・ 公私で担うべき役割や特性がそれぞれあり、中学校卒業者数の減少の中にあっても子どもたちの選択肢の維持・充実を図る必要があるが、今後、従来と同じ枠組みを続けていくのか、あるいは他の公私比率の定め方があるのか、全国の状況も参考にして考えていく必要がある。

(2) 公私比率を設定しない場合の影響

効果が期待できる点

- ① 公私双方において、より一層の特色化・魅力向上の取組みの活性化につながる。
- ② 中学生の進路選択の幅が広がる。

影響が懸念される点

- ① 各設置者において、定員管理を適正に行う必要が生じる。高倍率の学校が生じる一方、定員割れの学校が増加することが予想される。
- ② 県立高校の定員が見直されない場合、県立高校に比べ授業料の高い私立高校への入学割合が減少し、私学の安定経営に影響を及ぼし、生徒の多様な選択の機会の減少につながる可能性がある。
- ③ 私立高校の定員が見直されない場合、県立高校が独自に募集定員を設定（削減）しなければならなくなる。

(3) 生徒や保護者の進路志望動向

- ① 県内の生徒（保護者）のニーズは、依然として県立志向が強い。
- ② 一方、近年は行きたい学校を志望する傾向がある中、私立高校の授業料減免も後押しとなり、特色ある自由な校風などの私立高校を志望しやすくなっている。
- ③ 県外流出者（特に広域通信制）が増加傾向にある。

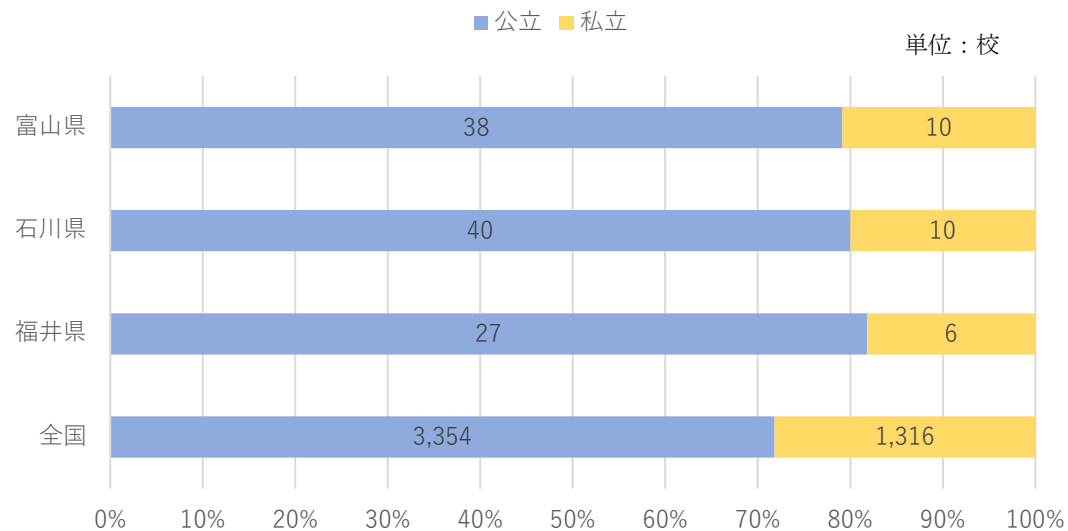
（県外広域通信制高校への進学者数 H31(R1):70人、R2:90人、R3:124人）

4 関連資料

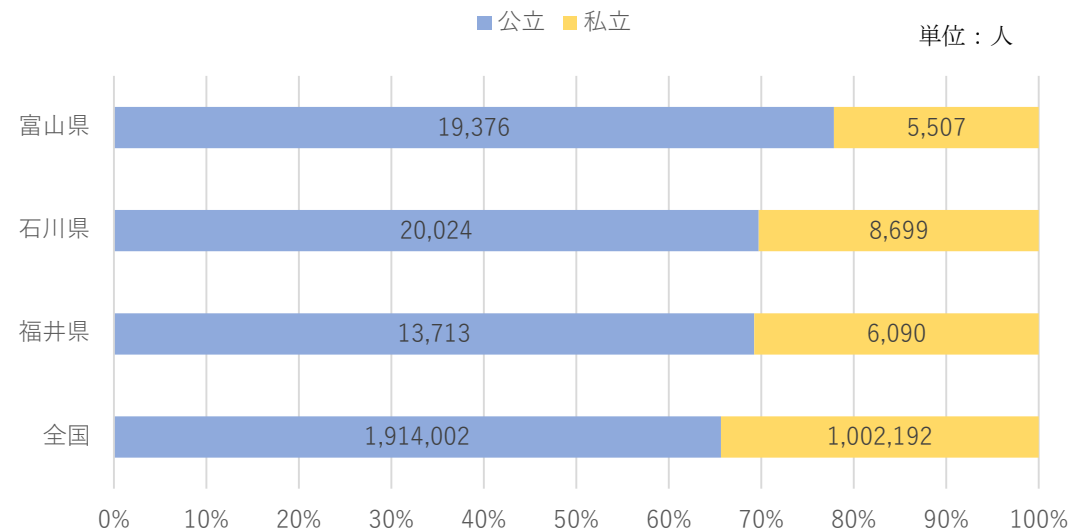
(1) 公立・私立高校別の学校数・生徒数の割合

- 学校数は、北陸3県は全国と比べると公立高校の割合が高い。北陸3県内はほぼ同様の傾向にある。
- 生徒数は、富山県は公立高校の割合が高い。

< 高等学校の学校数（全日制）〔R3〕 >



< 高等学校の生徒数（全日制）〔R3〕 >

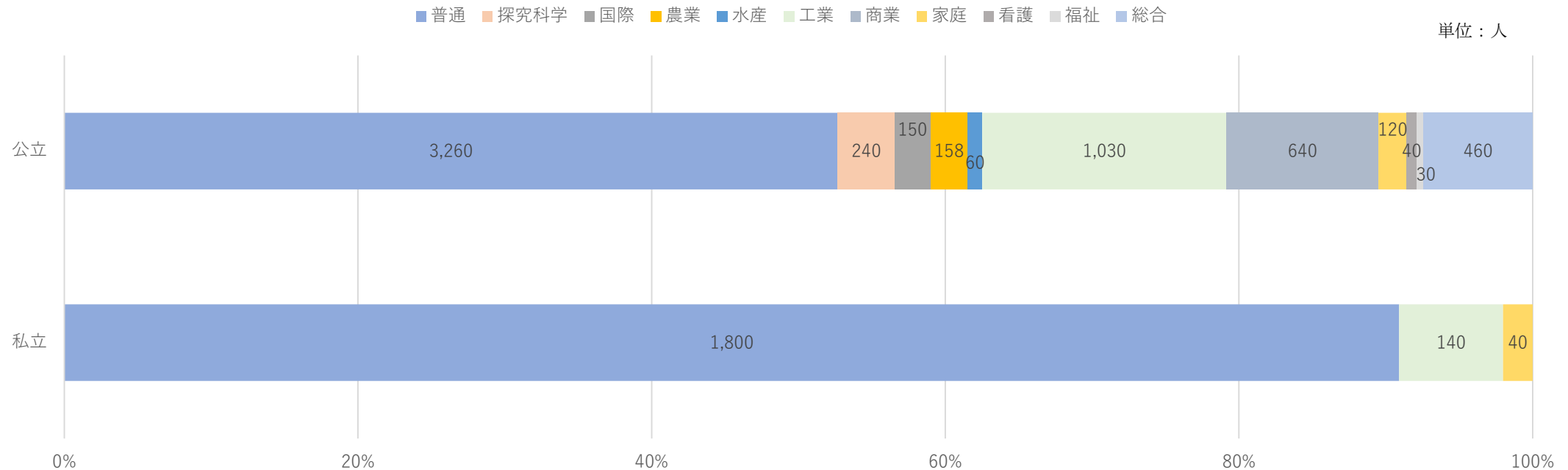


資料：学校基本調査

(2) 公立・私立高校の学科の設置状況

- 公立高校は、普通科に加え多様な専門学科を設置している。
- 私立高校は、普通科の割合が高いが、それぞれの学校で特色あるコースを設置している。

令和5年度学科別設置状況（富山県）（第1学年定員）



※探究科学科は、理数科学科と人文社会科学科の総称

<私立高校の学科・コース>

学校名	設置者名	設置学科名	コース名
不二越工業高等学校	学校法人 不二越工業高等学校	情報機械科	制御システムコース
			機械システムコース
龍谷富山高等学校	学校法人 藤園学園	普通科	特別進学コース
			進学・スポーツコース
			総合コース
			キャリアデザインコース
			福祉コース
			生活文化コース
高岡第一高等学校	学校法人 高岡第一学園	普通科	特別進学コース
			特別進学Aコース
			進学コース
			未来創造コース
富山第一高等学校	学校法人 富山第一高等学校	普通科	S 特別進学コース
			特別進学コース
			総合コース
			美術コース

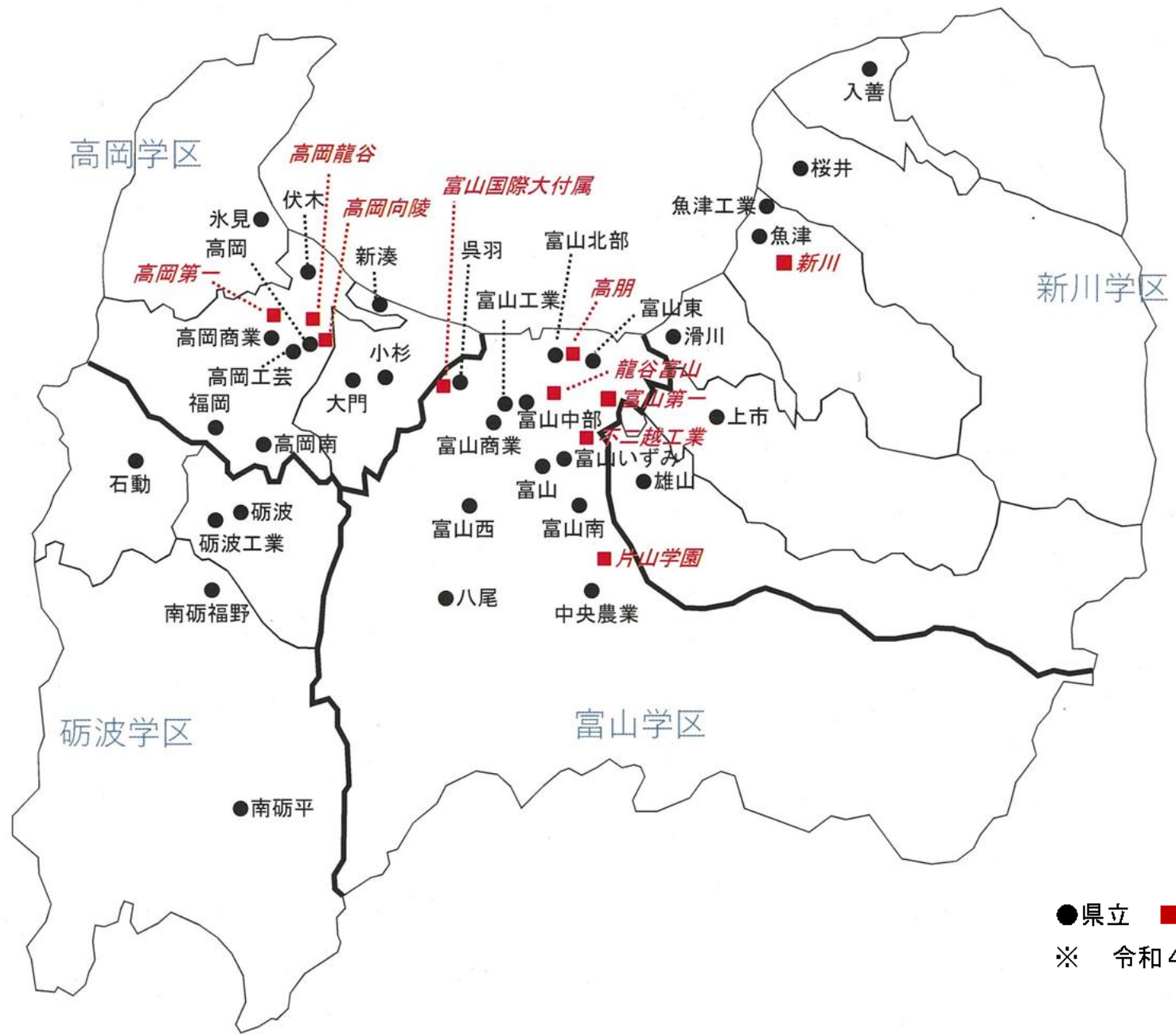
学校名	設置者名	設置学科名	コース名
高朋高等学校	学校法人 神通学館	普通科	共通コース
			エクストラコース
			アドバンスコース
			ベーシックコース
高岡向陵高等学校	学校法人 荒井学園	普通科	未来デザインコース
			未来探求コース
新川高等学校		普通科	未来デザインコース
			未来探求コース
高岡龍谷高等学校	学校法人 清光学園	普通科	特進コースアドバンス
			特進コースプロGRESS
			クリエイトコース
		調理科	-
富山国際大学付属 高等学校	学校法人 富山国際学園	普通科	国際英語コース
			特進コース
			フロンティアコース
片山学園高等学校	学校法人 片山学園	普通科	中高一貫校コース ※中学受験者対象
			3年制進学コース ※高校受験者対象

(3) 公立・私立高校の地域分布

- 公立高校は、各地区に普通科校、普通科と職業科の併設校、専門高校がある。
- 私立高校は、富山地区が6校と私立高校全体の半数以上を占めており、高岡地区が3校、新川地区が1校で、砺波地区にはない。

全日制高等学校（地区別学校数）

区分	県立	私立	新川地区		高岡地区	
			県立高校	私立高校	県立高校	私立高校
新川地区	7	1	1 入善高等学校	1 新川高等学校	1 小杉高等学校	1 高岡第一高等学校
富山地区	12	6	2 桜井高等学校		2 大門高等学校	2 高岡向陵高等学校
高岡地区	10	3	3 魚津高等学校		3 新湊高等学校	3 高岡龍谷高等学校
砺波地区	5	0	4 魚津工業高等学校		4 高岡高等学校	
計	34	10	5 滑川高等学校		5 高岡工芸高等学校	
			6 上市高等学校		6 高岡商業高等学校	
			7 雄山高等学校		7 伏木高等学校	
			富山地区		8 高岡南高等学校	
			1 中央農業高等学校	1 不二越工業高等学校	9 福岡高等学校	
			2 八尾高等学校	2 龍谷富山高等学校	10 氷見高等学校	
			3 富山西高等学校	3 富山第一高等学校	砺波地区	
			4 富山高等学校	4 高朋高等学校	県立高校	私立高校
			5 富山中中部高等学校	5 富山国際大学附属高等学校	1 砺波高等学校	
			6 富山北部高等学校	6 片山学園高等学校	2 砺波工業高等学校	
			7 富山工業高等学校		3 南砺福野高等学校	
			8 富山商業高等学校		4 南砺平高等学校	
			9 富山いずみ高等学校		5 石動高等学校	
			10 富山東高等学校			
			11 富山南高等学校			
			12 呉羽高等学校			



● 県立 ■ 私立
 ※ 令和4年度設置校

(4) 中学校卒業見込者の進路希望状況

○ 富山県の生徒は公立志向が強く、進路希望を調査する中学3年5月時点では、約9割が全日制課程への進学を希望し、約8割強が県内県立高校を希望している。

進学先別希望状況

単位：上段は% 下段は人

年度	区分	卒業予定者数	進学希望者数	全日制課程		定時制課程	通信制課程	高等専門学校	特別支援学校
				全体	内 県内 県立高校				
H30	割合	100.0	98.7	92.6	87.1	2.0	0.2	3.1	0.8
	実数	9,552	9,427	8,846	8,316	189	23	297	72
R1	割合	100.0	98.9	92.4	85.6	2.3	0.4	3.3	0.5
	実数	9,305	9,206	8,601	7,962	215	38	304	48
R2	割合	100.0	98.5	91.8	85.1	2.2	0.4	3.2	0.9
	実数	9,037	8,905	8,293	7,690	203	40	291	78
R3	割合	100.0	98.1	90.6	83.6	2.4	0.6	3.9	0.5
	実数	8,910	8,738	8,072	7,446	217	54	347	48
R4	割合	100.0	98.1	91.0	83.4	2.3	0.8	3.2	0.7
	実数	8,751	8,589	7,966	7,294	203	72	284	64

(注) 上段は各進学先別希望者数の卒業予定者数に対する割合である。なお、端数処理のため、各割合を合計しても100.0%にならない場合がある。

※ 令和4年度中学校第3学年及び義務教育諸学校第9学年生徒の進路希望調査結果（令和4年5月1日現在）による